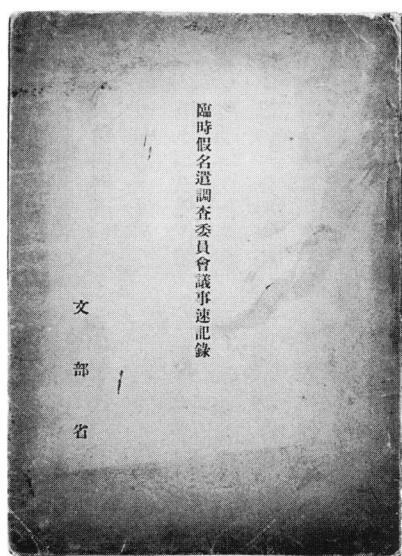


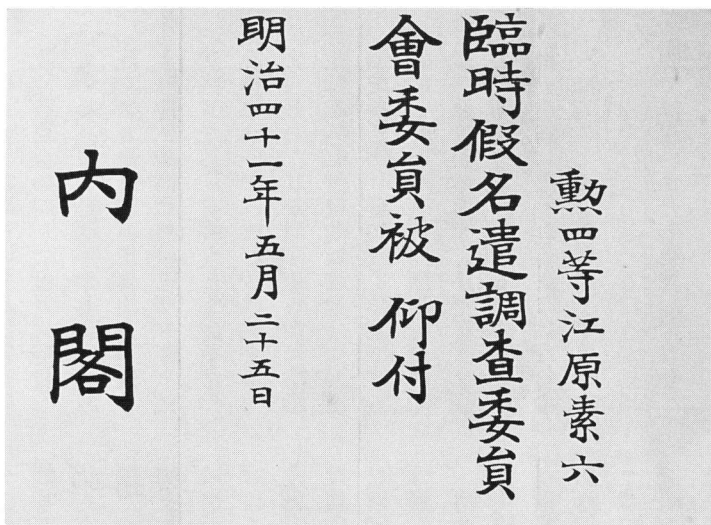
沼津市

# 明治史料館通信

2007.1.25 (季刊 年4回発行) Vol. 22 No. 4 通巻第88号



臨時假名遣調査委員會議事速記録  
(当館所蔵)



臨時假名遣調査委員会委員辞令  
(当館所蔵・江原素六関係文書)

江原素六とその周辺<43>

臨時假名遣調査委員会

での江原素六

近代国家にとって、国民に使用させるべき国語の統一・整備は、必要不可欠な課題であった。明治維新後の日本では、「いぬ(犬)」、「ぬ(井戸)」、「たひ(鯛)」などと書き分ける歴史的仮名遣いをどうするかが、国語問題の中の懸案のひとつであった。

明治三三年(一九〇〇)文部省は、小学校教育では、難しい歴史的仮名遣いをやめ、表音的仮名遣いの採用を決定した。たとえば、「か」と「くわ」、「じ」と「ぢ」の区別を廃し、「か」「じ」に統一したわけである。ただし、国語仮名遣い(大和言葉を表記する仮名)はそのままとし、字音仮名遣い(漢字の音を表記する仮名)に限るものとした。

三八年(一九〇五)文部省は、字音仮名遣いのみならず国語仮名遣いも改訂し、中等学校にまで実施範囲を広げるといった方針を打

ち出し、国語調査委員会、高等教育会議、帝国教育会といった組織・団体に諮問した。学会・教育界・マスコミには賛否両論が巻き起り、貴族院でも反対意見が出された。文部大臣は、改訂案のさらなる研究が必要であると認め、四一年（一九〇八）五月二三日、臨時仮名遣調査委員会を設置し、諮問を行うこととした。

臨時仮名遣調査委員会の委員に任命されたのは、以下の二六名である。菊地大麓（委員長）、曾我祐準、松平正直、浅田徳則、小牧昌業、山川健次郎、岡部長職、矢野文雄、森鷗外、岡野敬次郎、小松謙次郎、井上哲次郎、上田万年、伊地知彦次郎、伊沢修二、徳富蘇峰、横井時雄、芳賀矢一、松村茂助、島田三郎、藤岡好古、大槻文彦、江原素六、鎌田栄吉、三宅雪嶺、肥塚龍。江原は、すでに高等教育会議議員などつとめており、西園寺公望政権下、与党の衆議院議員・立憲政友会幹部としての立場が考慮されたばかりでなく、当然ながら教育者（麻布中学校長）としての見識も買われ、人選され

たものと考えられる。

委員会は、同年六月五日、一二日、一九日、二六日、七月三日と、全五回にわたって開催された。意見を述べた委員のうち、改訂に賛成したのは大槻・芳賀・矢野・伊地知、反対したのは森・伊沢・藤岡・曾我であった。森鷗外が歴史的仮名遣いの擁護派であったことはよく知られる。

江原は、議事速記録によれば第二回委員会の時、二度だけ発言している。「私ハ何時マデモ古イ事ヲ固守スルモノデハナク出来ル限り文部省ノ御案ニ御同意ヲシタイノデアリマス」と述べているように、大枠においては改訂賛成派であったらしい。しかし、少し前の小学生は意外に歴史的仮名遣いに習熟していたが、近頃は中学生ですら熟練していないとの印象を述べ、「矢張り日本人トシテハ従来ノ仮名ヲモ知ラナケレバナラス」ので、他の教科に迫られるようになる中学校で教えるよりも、小学校時代に要点だけでも教えるほうが効果的ではないかとも発言しており、強硬な歴史的仮名遣い排除論者で

はなかったことがわかる。

また、「私ノ学校ナドデハ折々外人ガ参リ教ヘテヤル」のだが、科目によって教科書で使用する仮名遣いが不統一であり、日本人ですら不便を感じることもあるとの指摘を行った。また、中学校生徒が高等学校等の官立学校を受験した際、試験の答案に新仮名遣いを使用したがために落第にされるような心配はないのか、といった質問を行い、麻布中学校での実体験にもとづく質問・意見を出している。江原の質問に対して、事務局側（主事）からは、入試に際してはどちらの仮名遣いに対しても許容する方針であるとの回答を行ったほか、中学校の教科書については検定で仮名遣いを統一するしかないが、細かい統一をはかることは難しいとの考えが述べられた。

さらに、以前の小学生のほうがある指摘に対しては、それは誤解であり、仮名よりも漢字に慣れていた昔の学生に比べれば、かえって近頃の小学生のほうが仮名遣いをきちんと習っていると述べた。そ

の返答に対し江原は、先に自分が言ったのは、「私ノヤウナ天保時代ノコト」ではなく、明治の学制頒布以降のことであると述べ、維新前の大昔のことと受け取られたことにムツとしたらしい。委員の中で江原は最年長だった。

さて、同年七月、政権が西園寺から桂太郎に交替すると、臨時仮名遣調査委員会は休会となり、調査未了のまま一月二日には廃止となった。その間、桂内閣の文相は、臨時仮名遣調査委員会の答申を待たず、九月に訓令を発し、小学校での字音仮名遣いを撤回させ、旧に復した。

その後も大正・昭和戦前期を通じて、仮名遣いの改訂は繰り返し議論されたが、最終的な結論をみないまま敗戦に至った。戦後改革の一環として「現代かなづかい」が公布されたのは、昭和二年（一九四六）のことだった。

（参考文献）『臨時仮名遣調査委員会議事速記録』（一九〇九年、文部省）、『覆刻文化庁国語シリーズⅠ国語問題』（一九七三年、教育出版株式会社）（樋口雄彦）

シリーズ  
沼津兵学校とその人材

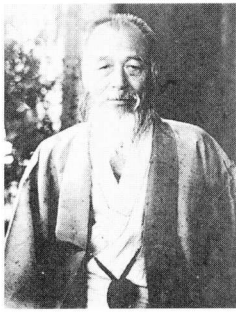
79

## 東京大学に勤務した池田保光

池田保光は旧名を六蔵という。

「八蔵」とする文献があるが（大野虎雄『沼津兵学校と其人材』、誤りである。保光は中島文平の弟であり、婿養子として池田家に入った。養父鐵三郎政重は、本家六代目の養子であったが、後に分家を立てて徒士として幕府に仕えた。政重は慶応三年一〇月に没しており、幕府瓦解時には保光が当主になっていた。

保光は、移住予定者名簿「駿河表召連候家来姓名」では陸軍用取扱。明治元年一〇月二一日、河津祐賢（三郎太郎）・芳賀可伝・川口嘉・志村貞鏡ら一二名とともに陸軍学校生徒を命じられる。つまり沼津兵学校の暫定生徒となったわ



池田保光  
(山辺昌彦氏提供)

けである。そして二年四月には第二期資業生に及第。なぜか二年秋

頃刊行の『沼津御役人附』に名前がないが、三年三月発行の『静岡御役人附』には掲載されている。

ところが中途退学したらしく、三年九月一六日新政府より大学出仕教場手伝を申し付けられており、沼津から上京したようだ。

以後、大学南校↓開成学校↓東京大学に継続して勤務し、一九年（一八八六）非職となるまで、図書・器械の担当をつとめた。

公文書には以下のような記録が残り、その精励ぶりがうかがえる。

### 十三等出仕

池田保光

右者辛未九月中十二等出仕拜命、昨春中ヨリ書籍掛相勤候、以来勉勵罷在、殊二昨年中ヨリ当校御備書籍器械類次第増加いたし候処、取扱方行届、繁劇之事務担当尽力能ク其任ニ堪へ御用弁相成候者ニ付、十一等出仕へ御進メ有之度段、

至急御詮議相願候也

開成学校学長

伴正順

明治六年六月三日

本省御中

（東京大学総合図書館所蔵・東京帝国大学五十年史料「含要類編 続編 職員進退之部」）

東京大学で数学を講じたとする文献もある。数学を得意としたことは確かなようであり、明治一年（一八七八）頃、荒川重平・中川将行・永峰秀樹・真野肇・田村直男・堀江当三・永井当昌・平岡道生ら沼津兵学校出身者らとともに三五社と称する数学学習会に参加していたことが知られる。

明治十年代には沼津旧友会に参加しており、沼津時代の友人と交際を続けた。四五年（一九一二）

の江原素六古稀祝賀会には発起人に名を連ねた。大正五年（一九一六）時点では江戸旧事采访会の通常会員であり、旧幕時代の歴史に関心を抱いていたことがわかる。

保光は大正七年（一九一八）二月一日、七八歳にて没。弘化元年生まれとする史料があるが、年

齢が合わない。戒名は実性院徹誉

保光居士。二歳年少ながら義兄（妻

せい）の姉こうの夫の西村正立（熊

次郎）は沼津兵学校第四期資業生。

本家の八代目で従弟にあたる池田

忠一は静岡学問所教授だった。

保光には七男四女があり、長男昇三は農学士で大蔵省専売局などに勤務、次男清は東京帝国大学卒の理学士で陸軍士官学校教官。三男・四男は早世。五男蔵六はやはり東京帝国大学出身の法学士で台湾総督府専売局長・財務局長をつとめた。六男収蔵は朝鮮総督府専売局勤務、七男晋は工学士で鉄道省技師。昇三の誕生日は明治二年九月なので、父が資業生のとき沼津で生まれたのであろう。

（参考文献）池田宏『朝露の覚』（一九三五年）、『追悼録』（一九七四年）、『江戸』第三巻第三綴（一九一六年）、「幕臣志村貞廉日記」（東京大学史料編纂所蔵）、東京帝国大学五十年史料（東京大学総合図書館所蔵）、「三五社算学会題」（荒川鐵太郎氏所蔵）（協力者）山

辺昌彦、池田靖、池田治枝、池田道（敬称略）（樋口雄彦）

## お知らせ欄

## ◎第二回企画展

## 「新収資料の公開」の開催

博物館の大事な使命のひとつに資料の収集・保存があります。当館では、沼津の歴史と文化を語る重要な歴史資料を、研究し、活用するため、また散逸から守るために収集・保存しています。毎年、寄贈・寄託していただいたり、購入するなどして資料を収集していますが、常設展・企画展などで展示する機会がないまま収蔵庫で眠

っている資料も少なくありません。今回の企画展では、近年収集した資料のうち、未公開もしくは公開する機会が少なかった資料を中心に「新収資料の公開」として皆さんにご覧いただきたいと思えます。貴重な資料を永く保存され、当館に寄贈・寄託くださった方々のご厚意に、深く御礼申し上げますとともに、今後とも、沼津にとつて貴重な資料の収集・保存と、展示等を通しての活用を図る当館の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

期間…2月17日(土)～3月18日(日)  
会場…3階北側展示室

※期間中江原素六コーナーは縮小しています。

## ギャラリートーク

会場で学芸員が展示の解説をします。申込不要。直接会場までお越し下さい。

実施日…毎土曜日 午前11時～

2月17日・24日

3月3日・10日・17日

## 〈主な展示資料〉

## ◆沼津兵学校関係資料

■中根香亭関係資料(西村正雄氏寄贈) ■山口知重関係資料(山口渚氏寄贈) ■野沢房迪関係資料(野澤敦氏寄贈) ■加藤定吉関係資料(山本美穂子氏寄贈)

■西川鉄次郎関係資料(西川創氏寄贈) ■井口省吾書額(第四小学校寄贈) ■田辺太一関係資料(購入) など

## ◆江戸時代の沼津

## 〈沼津藩の資料〉

■沼津城の瓦(宮治孚美子氏寄贈) ■武術静間之巻(購入) ■『和露通言比考』(旧沼津藩土尾

崎容関係文書・尾崎明氏寄贈)

■藩札(購入) など  
〈宿・村の資料〉

■沼津本町野方絵図(購入) ■浮世絵「東海道中栗毛弥次馬沼津」(購入) ■木負相磯家(上

条)文書(相磯晶美氏寄託) ■内浦村名主文書(購入) など

## ◆絵葉書・写真に見る沼津

■写真・昭和十二年頃の沼津(長倉みつ氏寄贈)

■三島館(松尾茂雄氏寄贈) ■遊覧船竜宮丸(購入) ■明光の沼津(購入) ■静浦風景(購入)

■観光の三津(購入) ■沼津ノ富士(購入) など

## ◆様々な沼津の歴史資料

■灯火管制用電球(八十濱俊一氏寄贈) ■和田伝太郎筆屏風(田中明氏寄贈) ■飯盒(加藤昇氏寄贈) ■「桃中軒」汽車土瓶(購入) など

## 沼津市明治史料館通信 第88号

編集 沼津市明治史料館  
発行

〒410-0051 沼津市西熊堂三七二-1  
電話 〇五五-九二-三三三三五

FAX 〇五五-九二-三〇一八  
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/meiji/index.htm

平成18年度第2回企画展

沼津市明治史料館

## 新収資料の公開



平成19年2月17日(土)～3月18日(日)

- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 2月19日・26日・28日 / 3月5日・12日
- 観覧料 大人200円・小人100円(市内の小・中学生は無料)
- 交通 JR沼津駅より富士急バス「明治史料館前」下車

## 学芸員によるギャラリートーク

毎土曜日 午前11時から(2月17日・24日 / 3月3日・10日・17日)

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1 TEL 055-923-3335

